

学長選考会議議事要録

1. 日 時 平成18年7月24日(月) 10:00～11:30
2. 場 所 弘前大学事務局2階 特別会議室
3. 出席者 丹野(議長), 石戸谷, 岡井, 佐藤, 南條, 吉田, 藁科, 小川, 須藤,
加藤の各委員
欠席者 小田切, 榊引の各委員
事務局陪席 三浦総務課長

◎ 議長から、前回会議(6月30日開催)の議事要録(案)について確認され、異議なく了承された。

4. 審議事項

議題1 学長候補者選考規程の見直しについて

議長から、前回の会議の議論を踏まえて、学長選考プロセス及び今後の検討課題を資料のとおりまとめたので、本資料をたたき台として議論を深めていきたい旨の発言があった後、次のような意見交換があった。

- 第1次学内意向投票の後に、本会議が学外の有識者を第1次学長候補者として加えるのは、学内の意向に反するのではないかという懸念がある。学外の有識者で候補者として推せるような者がいるのであれば、第1次学内意向投票の前に学内に周知させるなどタイミングが重要だと思われる。
- 第1次学内意向投票の結果は、学内の候補者が得票上位者となる可能性は大きい、学外の候補者が得票上位者になることは可能性が低い。そうすると学外からの候補者の道を閉ざしてしまうことになることから、前回の会議では第1次学内意向投票の後に本会議が加えることができるようにするという意見があったと思うが。
- 投票の結果が分かった後に、さらに候補者を加えるというのはおかしいと思われる。最初から学外の候補者を推すことはできないのか。
- 本会議が学外の候補者を推すということは、かなり重い意味を持っており、最初から学外の候補者を推すことによって投票資格者に対する重みも違ってくるのではないか。
- 前回の会議では、学外の有識者を本会議が推す道を残すということは一致した意見だったと思うが、どのタイミングで推すのかは共通の理解にはなかった。
- どのような場合に本会議が学外の有識者を推すことができるのかははっきりさせておかなければならないのではないか。
- 本会議が最終的な決定権を持っているとは言え、各候補者が学長としての能力・資質を持っているかを見極めることは難しいと思う。やはり学内の意向投票の結果が大きな拠り所となるのではないか。

- 本会議は、制度として極論すれば、学内の意向を聴かずに学長を決められることになっているが、それが現段階で馴染むかといえば判断が難しい。本会議が推す学外からの有識者を早い段階で候補者とした方がよいのではないかという意見が出るのも同じことだと思う。今の段階では、学内の多くの意向を無視してまで候補者を推すというようなことはやらない方が定着しやすいのではないか。
- 本会議があえて学外からの有識者を候補者として推す理由と意向を第1次学内意向投票の前に示すことも考えられるのではないか。
- 本会議が学外からの有識者を候補者として推しても、第1次学内意向投票ではおそらく得票数は伸びないと思われる。
- 第1次学内意向投票の結果、本会議が推した候補者の得票数が少なく、上位5名に入らなければ第1次学長候補者にならない。本会議が推した候補者が第1次学長候補者にもならないのは如何なものか。
- 本会議が推した学外からの候補者については、おそらく学内ではその人柄とか能力については十分に理解されていないと思う。理解してもらおう機会というのが第1次学長候補者による所信表明の演説会になるが、そうすると第1次学内意向投票の前に演説会を開かなければならないという矛盾が生じる。そういう点で第1次学内意向投票は、あくまでも学内構成員からの推薦者を選ぶ投票とし、第2次学内意向投票を本会議が推した学外からの候補者も含めた決選投票と位置付けてはどうか。
- 学内意向投票を2回行う必要が本当にあるのか疑問である。最初から、ある一定の推薦人を必要とする推薦制を採用し、本会議が推した学外からの候補者も含めて演説会の後に学内意向投票を行ってはどうか。
- 推薦人を必要とする推薦制を採用すれば、学内意向投票も1回で済むし、今後の検討課題にもある辞退者が出ることもないのではないか。
- 推薦人を必要とする推薦制を採用しても、推薦された本人が辞退することはあり得る。そうなった場合、候補者が誰もいないことも考えられるのではないか。
- 候補者が誰もいないということは考えられないが、候補者が1名や2名の場合には、本会議がほかの候補者を推すかどうか考えなければならない。
- 学長は、本当に能力があり、大学を任せられる者でなければならない。得票上位者の辞退者が続出して、得票数が少ない候補者が学長になるということは考えられない。その見極めが本当に大事なところである。

続いて、議長から、本日の議論で推薦人を必要とする推薦制の採用が取り上げられたので、次回の会議では推薦制のメリット、デメリットについて議論したい旨の発言があり、異議なく了承された。

5. 次回の開催について

議長から、次回の開催時期については、9月の各委員の日程を調整した上で開催したい旨の発言があり、異議なく了承された。

以 上

